

「お念仏の生活」

以前あるお家へ法事に伺った時の事です。10人くらいお参りの方が居られましたが、その中には小さな子どもさんからご年配の方まで幅広い年代の方々が集まっていました。そこでお勤めを始めた時、なにより驚いたのは、皆が大きな声で「ナムアミダブツ」とお念仏を称えていた事でした。法事が終わった後その事をご主人に伝えると、「正信偈はなかなか覚えられないんですが、お念仏なら簡単なので毎朝称えています。」とのことでした。確かに「ナムアミダブツ」は誰でもすぐに覚えられ、称えることができるコトバです。まだ文字も読めない小さな子どもでも簡単に覚えられるでしょうし、一度覚えたら忘れません。最近物忘れが激しくなったという人でも、「お念仏を忘れた」という人はあまりいないでしょう。

しかし、その誰もが覚えられ忘れない「ナムアミダブツ」の7文字のコトバを、私たちは日頃口にすることがあるでしょうか。かく云う私自身も衣を着けている時以外では滅多に口にしていません。私たちは簡単で単純な事ほど軽視してしまいがちですが、その誰でも覚えられる簡単で単純なコトバこそ、阿弥陀如来のやさしさが表されているのではないのでしょうか。お念仏には阿弥陀如来の大悲の願いが込められているのです。そしてそのコトバに触れる人は、その人自身もまたやさしくなれるのではないのでしょうか。

親鸞聖人の詠まれた和讃に、

弥陀大悲の誓願を

ふかく信ぜんひとはみな

ねてもさめてもへだてなく

南無阿弥陀仏をとなくべし

とあります。私たちは阿弥陀如来のやさしさそのものであるお念仏を身近なことにしていく、そんな生活を心がけていきたいものであります。